

第54回

朔太郎忌

日時 2026年5月9日[土]
開演 13時30分 (開場12時30分)

会場 昌賢学園まえばしホール 小ホール
(前橋市民文化会館) 定員 600名 自由席

水と緑と詩のまち
朔太郎の
キケンな
散歩

第2部

リーディングシアター

早く家に帰りたい。／ 柵の向こうの朔太郎

出演 田中要次、柳沢三千代、萩原すみれ、萩原朔美 ほか

脚本 加藤真史 (演劇 / 微熱少年)

演出 生方保光 (劇団ザ・マルク・シアター)

第1部

対談「書斎の思想、散歩の思想」

出演 川上弘美 松浦寿輝

(小説家) (小説家・詩人・萩原朔太郎研究会会長・東京大学名誉教授)

散歩

チケット
購入方法

チケット 2,000円

(前橋文学館 観覧券1回分付)

販売・申込開始: 3月27日(金)午前9時より

- 前橋文学館の窓口でチケット購入(現金のみ)
- 裏面QRコードよりオンラインチケット購入
- 前橋文学館へ電話(027-235-8011)申込

※③の場合は、チケット代は予約から2週間以内に前橋文学館窓口でお支払いください。

主催 前橋市、朔太郎忌実行委員会

共催 (公財)前橋市まちづくり公社、萩原朔太郎研究会、前橋文学館友の会

後援 朝日新聞前橋総局、NHK前橋放送局、株式会社エフエム群馬、共同通信社前橋支局、群馬テレビ株式会社、産経新聞前橋支局、J:COM群馬、時事通信社前橋支局、上毛新聞社、高崎前橋経済新聞、東京新聞前橋支局、毎日新聞前橋支局、(公財)前橋観光コンベンション協会、まえばしCITYエフエム、前橋商工会議所、読売新聞前橋支局

協賛 群馬詩人クラブ、群馬ペンクラブ

お問い合わせ 朔太郎忌実行委員会 (水と緑と詩のまち 前橋文学館内)

TEL: 027-235-8011 FAX: 027-235-8512

https://www.maebashibungakukan.jp 〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目 12-10

詩人・萩原朔太郎が亡くなったのは、1942（昭和17）年5月11日でした。
 朔太郎の生誕の地前橋では、例年命日に合わせて近代詩史に大きな足跡を残した
 朔太郎を偲ぶ「朔太郎忌」を開催しています。
 今回は、表現、詩作と散歩をテーマに、第1部では作家・川上弘美氏をお招きし、
 松浦寿輝氏（萩原朔太郎研究会会長）と対談していただき、
 第2部では新作のリーディングシアターを上演します。



第1部 対談 「書齋の思想、散歩の思想」



©講談社 / 森澤

かわ
かみ
ひろ
み
川上弘美

1958年東京都生まれ。小説家。日本芸術院会員。1994年、「神様」でデビュー。1996年、「蛇を踏む」で芥川賞受賞。「神様」（ドゥマゴ文学賞）、「センチの靴」（谷崎潤一郎賞）、「溺れる」、「龍宮」、「ニシノユキヒコの恋と冒険」、「古道具中野商店」、「真鶴」（芸術選奨文部大臣賞）、「大好きな本」、「どこから行っても遠い町」、「七夜物語」、「水声」（讀賣文学賞）、「大きな鳥にさらわれないよう」（泉鏡花賞受賞）、「森へ行きましょう」、「三度目の恋」（恋ははかない、あるいはブルーの底のステーキ）（野間文芸賞受賞）「東京日記」など。



まつ
うら
ひさ
き
松浦寿輝

1954年東京都生まれ。小説家・詩人・批評家。萩原朔太郎研究会会長。東京大学名誉教授（フランス文学・表象文化論）。日本芸術院会員。東京大学大学院仏語仏文学専攻修士課程修了。詩集に「ウサギのダンス」「冬の本」（高見順賞）「鳥の計画」「吃水都市」（萩原朔太郎賞）「afterward」（鮎川信夫賞）「秘苑にて」など。小説に「花腐し」（芥川賞）「半島」（読売文学賞）「そこでゆっくりと死んでいきたい気持ちをそえる場所」「川の光」「名誉と恍惚」（谷崎賞・ドゥマゴ文学賞）「人外」（野間文芸賞）「無月の譜」など。エッセイ・評論に「折口信夫論」（三島由紀夫賞）「エッフェル塔試論」（吉田秀和賞）「知の庭園 一九世紀バリの空間装置」（芸術選奨文部大臣賞）「明治の表象空間」（毎日芸術賞特別賞）「黄昏客思」「わたしが行ったさびしい町」など多数。

ふりふりふりめぐる 朔太郎のキケンな散歩

第54回 朔太郎忌

第2部 リーディングシアター 早く家に帰りたい。 / 柵の向こうの朔太郎

脚本 加藤真史（演劇/微熱少年）
 演出 生方保光（劇団ザ・マルク・シアター）
 出演 **田中要次、柳沢三千代、萩原すみれ**
 萩原朔美（前橋文学館特別館長）ほか

朔太郎の曾孫・董は、前橋文学館制作映像『朔太郎の散歩道』のナレーションをしたことを機に、曾祖父が「毎日」歩いたという前橋の散歩道を、スマホ片手に歩き直す。生家跡、県庁、旧校地、前橋刑務所の赤レンガ塀―「裏ってどこ？」と問う董の足取りは、右回りの“お化け屋敷”めいた周回となり、退屈と恐怖、足音への嫌悪が朔太郎の散歩を漫歩へ変えていったことが浮かび上がる。董は同じルートを“本日二回目”として反復し、土手に駆け上がって浅間山を撮った瞬間、道路と川を隔てる白い鉄柵の向こうに、茫として川上を見つめる朔太郎の影を見る。



田中要次



柳沢三千代



萩原朔美



萩原すみれ

オンライン
チケット
購入方法

<朔太郎忌購入サイト>

右のQRコードを読み取り、必要事項に記入のうえお申し込みください



※別途手数料がかかります。

- ・3月27日（金）午前9時より受付開始。・座席指定はできません。
- ・事前申し込みの方：チケット引き換えは、当日12時から昌賢学園まえばしホール小ホールのチケット売り場で行います。
- ・チケット半券は、2026年5月24日（日）まで前橋文学館観覧券としてご利用になれます。（当日午前中に前橋文学館を閲覧されたい場合は、あらかじめお電話にてお知らせください）
- ・申込後のキャンセルは前橋文学館までお電話ください。



○会場アクセス
昌賢学園まえばしホール
 （前橋市民文化会館）
 〒371-0805 群馬県前橋市南町三丁目62-1
 詳細は昌賢学園まえばしホールHPをご確認ください。
<https://www.maebashi-cc.or.jp/maebashishibun/access>

アクセス（交通案内）
 電車 JR両毛線・前橋駅南口から徒歩8分
 自動車 関越自動車道・前橋ICから車で20分

※専用駐車場は詰込みとなります。お早めにお越しいただくか有料駐車場または公共交通機関をご利用ください。

前橋文学館
開催中の企画展

2階企画展示室（～5月24日まで）
 萩原朔太郎生誕140年記念 コレクション展
 「筆筆。文字書体をなさず。冷汗冷汗。一萩原朔太郎と文字」

3階オープンギャラリー（～5月17日まで）
 共催展
 「よみぐすり、処方します。処方箋文庫展」

Illustration & Design
 studio vision Tatsushi Ishiro